

# 埋めるな運河 殺すな小樽

# 運河拾萬人新聞

## 水と緑と歴史のまちづくり



〈発行〉  
小樽運河百人委員会

### 再度訴えます、運河の保存再生を。

人間不在、市民不在の町づくりではなく、  
ゆたかな人間性回復の町づくりを求めて。

峰山 富美

### 拝啓小樽市長様

●今、運河では  
今、私共の町小樽のシンボルであり、日本三大町並みの一つとまで評価された運河には作業用の棧橋が全域にわたり、我物顔にうちたてられており、杭うちのクレーンが威丈高に容赦なく杭をうちこんでいます。

小樽をふるさととする多くの人々の愛してやまぬ運河の保存再生を訴えてきたにもかかわらず、それを無視して土足でふみにじられているようないたみを感じます。

このまま市民がだまされてしまえば、本格的な埋立工事が始まります。だが、今ならまだ間に合います。ここまでするべきです。ここまでするべきです。

私共はこの場に立つ町に住む者としての誇りと喜びを感じ、自らもこの町づくりに参加し歴史文化を継承する責任を自覚させられるのです。

更に今、全国各地において都市空間の水辺が市民に与える価値が重要視されています。運河はこの都市空間の水辺として周辺の山並みや倉庫群とともに美しい歴史性、文化性とともに一層の価値を深め、多くの人の心をとりこむ要素となっています。

ここから文学が生れ、環境は小樽の原風景です。小樽港は開拓当初道内の流通港として目ざましい実績をあげ、やがて雑穀の輸出港としてヨーロッパの市場を左右するほどの力をもち、ウォール街と称するに至りました。その全盛期をつくりあげた先人の生きた証しが運河と倉庫群です。

八十年にわたる時の中であらわれ、つくられあげられた蓄積、それが文化的、歴史的遺産とよばれるのです。

この環境から享受するものは計り知れないものがあり、この町に誇りがかけがえのない精神風土となっているのです。

私共はこの場に立つ町に住む者としての誇りと喜びを感じ、自らもこの町づくりに参加し歴史文化を継承する責任を自覚させられるのです。

更に今、全国各地において都市空間の水辺が市民に与える価値が重要視されています。運河はこの都市空間の水辺として周辺の山並みや倉庫群とともに美しい歴史性、文化性とともに一層の価値を深め、多くの人の心をとりこむ要素となっています。

### ●どう選択するか

運河を埋めたてて臨港線をつくるか、運河の全面保存によって遺産を継承し運河周辺の再開発によって町の活性化をはかるか。今、そのいづれを選ぶのかを市民は問われています。その選択を誤ればこの町の将来を決定づける重大な意味をもち悔を残すことになることは目に見えています。

町はかつて住んでいた人、今住んでいる人、これから住む人々の連帯でつくられます。今生きている私共はこの連帯の中で過去をふまえて未来への責任において誤りない選択をなすべきだと思います。

市が保存を願う十万余の署名を無視し全国各地

日頃市政のためご精進です。考えればか励のほどご苦労さまりでなく状況も変わります。今ここに深い思いをこめてこのは保存を願う人もおもしろいおもしろい。う多くはなかったの多分市長さんは保存が今では過半数の人派の意見をくみいれたいが保存を願う人運河は半分残すことなのです。更に運河にしたのだし、認可再開発による活性化も下りて工事をして道の道もひらかれましているのだから今更何た。小樽の明るい展望をいっても無駄とお望みが見えてきたので考えましょう。

でも私共は諦められないです。これは否定する気はしません。

埋立てをじつと見ておれないのです。私共小樽市民の過半数が保存を願うこと心な痛めています。その他全国からどれほど保存を願う声がかよせられているかはかりしれないと思います。

しかし、市長さんはこの件については議会の議決を得、各審議会の答申をうけ、認可もうけたのだから何の手落ちもないこれを推進するのが行政の根幹と言われたいのであります。たしかにその通りなものでしょう。

しかし、民主主義の根源は市民の心からのぞむことを市政に反映することが最も大切でないので、環境保全にとりくようか又、十年前に策定されたものがこの変化の早い時代の中で町づくりの代りも変わってきた

「斜里町の百平方メートル運動」や「小樽水の自立を語る会」のように住民と行政が一体となつて政とが一体となつて環境保全にとりくようか又、十年前に策定されたものがこの変化の早い時代の中で町づくりの代りも変わってきた

峰山 富美